アシステック通信

# ASSISTECH

2016
75号

## 第53回
## 日本リハビリテーション医学会
## 学術集会 出展
## 平成28年6月9日(木)～11日(土)開催

目　次

P.1　ごあいさつ
P.2　新体制紹介
P.4　平成27年度研究実践から
P.6　北欧を訪ねて…
P.8　研修のご案内
P.10 第6回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会inHYOGO
　　小児筋電義手バンクについて
P.11 第 24 回福祉のまちづくりセミナーのご案内

THE HYOGO INSTITUTE OF ASSISTIVE TECHNOLOGY
兵庫県立福祉のまちづくり研究所

# 「本当に必要なもの」の提供を目指して

## （福祉のまちづくり研究所の機能が強化されました！）

次長　川中　正登

４月１日から福祉のまちづくり研究所次長として勤務しております川中です。どうぞよろしくお願いします。

さて、当研究所では、福祉のまちづくりを推進するため、高齢者や障害者、医療福祉の現場の皆さんに「本当に必要なもの」を研究開発し、提供することを目指しています。

そのため、これまで中央病院に設置されていたロボットリハビリテーションセンターを移管し、ロボットリハビリテーション機器の研究開発機能を強化しました。昨年度リニューアルした福祉用具展示ホールや評価室を拠点に、機器を活用した介護技術の開発や企業に対する開発支援、介護現場等への普及啓発まで、「研究開発」「開発支援」「導入支援」を総合的・一体的に進めてまいります。

また、高齢者・障害者・医療福祉職のニーズに適格に応えるため、研究所の能力・ノウハウを最大限活かせるよう研究ミッションごとにテーマを明確に定め「チーム」で取組みを進めている「ロボットテクノロジー」「移動支援」「居住支援」に関する研究を、引き続きしっかりと進めます。

ところで、高齢者や障害者の皆さんが住みよい、暮らしやすい福祉のまちづくりを進めるためには、これらの人たちがいつでも気軽に相談し、的確な助言・指導が受けられる人材の育成、福祉サービスを受けられる施設で実際に介護等に従事する方たちの知識・技能の向上が欠かせません。そのため、介護の現場で働く人たちの知識・技能、意欲の向上のために、最新の情報や技術を提供し習得していただくため、相談支援従事者研修・サービス管理責任者研修・介護予防推進研修などさまざまな研修を企画・実施していきます。

以上、平成２８年度の事業の一部をご紹介させていただきました。高齢者・障害者、医療福祉職等、福祉に関わるすべての皆さんに「本当に必要なもの」を提供するため、さまざまな事業に真摯に取り組んでまいります。どうぞ皆さま、引き続きのご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

**平成28年度　兵庫県立福祉のまちづくり研究所　ロボットリハビリテーションセンター　組織体制**

**ロボットリハビリテーションセンター課**

- 庶務部門：広報、イベント企画、研究にかかわる関係庶務　等
- 研究開発部門：ロボットテクノロジーミッション研究／補装具製作・修理事業
- 開発支援・普及部門（展示ホールほか）：福祉用具・介護ロボットの普及推進、介護現場への導入支援　等

**研究課**

- 移動支援ミッション研究
- 居住支援ミッション研究

**研修課**

- 介護予防推進、認知症介護、介護技術研修をはじめ／障害者相談支援従事者、福祉用具を活用した介護技術研修　等

# ロボットリハビリテーションセンター課

※ロボットリハビリは、兵庫県社会福祉事業団の登録商標（登録第5568045号）です。

## 研究開発部門《ロボットテクノロジーミッション》

ロボットリハビリテーションセンター・ロボットリハビリテーションセンター課にてロボットテクノロジーミッションを推進します。このミッションでは装飾性に優れた筋電義手、複数の入力手段が利用可能な環境制御装置、簡易に利用できる筋力計測装置などの開発を進めています。また、これまでの研究成果のひとつ、排泄支援装置は企業と連携し、製品化が近づいています。我々のチームは、多職種連携により現場ニーズを掘り起こし、技術面から問題解決を行うための研究開発を進めます。

高見響義肢装具士がメンバーに加わりました。

本田、高見、中村（豪）

## 開発支援・普及部門

従来からの福祉用具に加え、歩行支援や見守りシステム、服薬支援などの介護ロボット機器も実際に見て、試すことができるようになりました。ロボット技術が高齢者・障害者の自立支援や介護従事者の負担軽減にうまく活用いただけるよう、情報発信をしています。最近は県内外の医療･介護･福祉･建築関係の方々をはじめ、海外からも多く来館いただいております。開館時間内はどなたでも自由に見ていただけます。また事前にご連絡いただければ団体見学、スタッフによる案内・相談にも対応しています。ぜひ一度お越しください。

伊藤（有）、福元、溝口、中川
美馬、吉田、伊藤（美）

## 庶務部門

庶務部門では、研究機関として関連する研究費などの執行管理や、各種委員会の開催調整をはじめ、関係機関や県民に向けた「福祉のまちづくり」の普及啓発、また研究所の取り組みや研究成果の広報を図るため、機関誌発行やホームページの開設、各種イベントの企画実施などを担っています。

これまで、中央病院で所管されていたロボットリハビリテーションセンターが今年度から研究所移管されました。今後、更に臨床ニーズに沿った実用的な機器開発へとつながるよう、臨床現場スタッフ、関係機関との連携を深めてまいりたいと思います。

水口、北原、田中、石井

# 研究課

### 移動支援ミッション

「移動」は多くの方にとって日常的かつ重要なことです。しかし、「移動」の先には必ず目的となる「活動」や「参加」があります。すなわち、「移動」支援することは移動が困難な方の「活動」や「参加」を支援する事にほかなりません。

移動支援ミッションでは、障害を持つ方々の移動を支援するための、「人」「（福祉用具などの）道具」「（移動を行う）環境」「（移動に必要な）情報」に対し多面的なアプローチにより、主に工学的な見地から研究に取り組んでいます。

移動支援の研究を通じて、移動が困難な方々の参加を支援していきます。

赤澤、原、中園（薫）
北川、中村（俊）、大森

### 居住支援ミッション

人が生活する上で「住まい」は基本となるものです。障害のある人が自立した生活を営み、社会に参加して、安心して暮らせる“まち”、高齢になっても可能な限り暮らし慣れた場所で住まい続けられるような“まち”は、これからますます重要になっています。

居住支援ミッションでは、これを実現・推進してゆく上で必要な住宅やまちの要素について、障害の多様性やバリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮した居住環境、高齢になっても住まい続けることのできる住まいや地域づくりについて取り組み、実践的な福祉のまちづくりにつながる支援をしてゆきます。

相良、大西、宮野、北川、大森、中園（正）、三谷

# 研修課

研修課では高齢の方、認知症の方、障害をもつ方が地域で自分らしく暮らすために、適切な支援を行う人材の育成を目的として、兵庫県からの委託研修や自主研修を実施しています。いずれの研修も新オレンジプラン・地域包括ケア・障害者総合支援法等の施策を反映しながら関係機関と連携し、より良い研修を目指して、地域特性に応じたカリキュラム・内容の充実に努めています。

研修内容は8・9ページに記載しているとおりです。研修課一同、積極的な受講申し込みをお待ちしております。

安岡、谷垣、谷口、山口、吉田、代田

# 移動支援ミッション

## 1. 車椅子を漕ぐ力を計れるホイールの開発

移動支援ミッションでは車椅子マラソンの選手の競技力向上を支援するために、車椅子を漕ぐ力(以下、トルク）を計測する競技用トルク計測ホイールを開発し、計測したトルクを用いて漕ぎ方を評価する研究を実施しています。

開発した競技用計測ホイールを用いて計測した結果を図1に示します。図1上段はトルク、下段は速度の時間変化を示しています。図1上段のトルクの時間変化から、一漕ぎの時間やホイールにトルクを加えている時間、また、一漕ぎの間にホイールに加えられたトルクの総量を求めることができます。

またこの技術を応用し、昨年度から車椅子ユーザの健康管理に向け、日常生活におけるトルクを計測するための機器として日常生活用トルク計測ホイールの開発を行なっています。

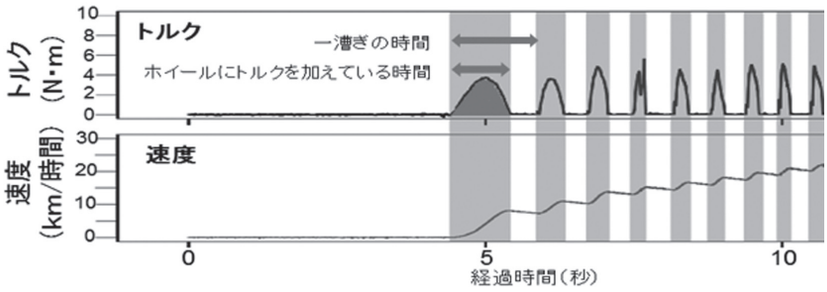



図1 競技用計測ホイールによる計測結果の1例

図2　競技用トルク計測ホイール
（車椅子への装着状態）

## 2. 無人駅利用時の不便さに関する調査と提案

近年、公共交通の経営の合理化の結果、利用者の多い都市部においても無人駅や駅員巡回駅が増加しています。そこで、兵庫県内の聴覚障害者と視覚障害にアンケートを行い、無人駅でのバリアを明らかにし、配慮のポイントについて提案を行うこととしました。

両者とも乗車券販売所と改札口での不便が多く、またインターホンについては、インターホン越しでは障害による不便さが伝わりにくいため、駅員の対応に不満を感じていることが示されました。

この結果から、券売機や自動改札などの機器に対し、障害に配慮した改善や規格の統一が望まれます。また、それらの機器操作に慣れるために体験会など当事者団体と事業者をつなぐ場の整備も必要と考えられます。

さらに、スマートフォン等、身の回りにあるテクノロジー（アルテク）の活用と、それらの情報を共有できるネットワークづくりも合わせて考える事が重要でしょう。

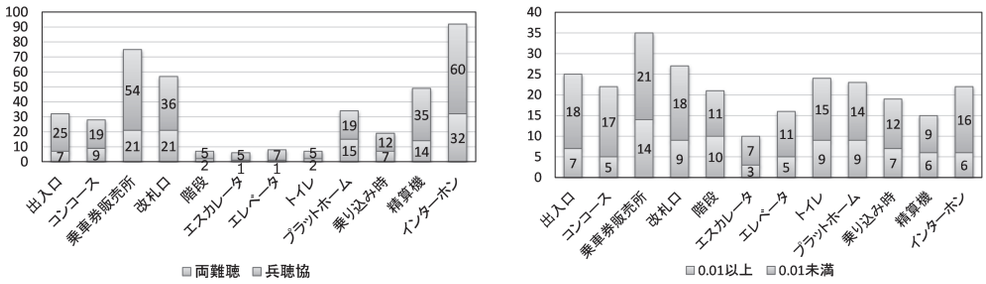



図3.無人駅の場所別不便さ件数（左:聴覚障害者,右:視覚障害者）

# 居住支援ミッション

## 1. 福祉のまちづくり条例チェック&アドバイス

チェック&アドバイスの様子

兵庫県福祉のまちづくり条例では、2010年から高齢者や障害者など利用者みずからが、点検・助言を行うチェック&アドバイス制度（以下「C&A」）を創設し、累積実施件数は53件になりました。研究所では創設当初からとりまとめや研修などの支援をしてきましたが、2014～2015年度にかけて19件の同行調査とその分析を行いました。分析した指摘項目数は564項目にのぼり、新築建物だけではなく、既存の建物も総計28件実施されたことも特徴でした。その内容は施設管理者、設計者が当事者とともに現場をまわって、どうすればよいかについてその場で議論したものです。当事者の動きを理解したうえで、家具等の配置転換、情報提供や人的支援のあり方、整備時期など再整備にこだわらない柔軟な助言が行われていることが確認できました。

この制度は当事者の意見を当該建物に反映することを目的にした制度ですが、データの蓄積･分析･検討というプロセスを経ましたので、このプロセスを強化するために、アドバイザー向け研修を実施するとともに、データの蓄積・分析・検討を簡便に行うためのシステム提案をしました。

## 2. 発達障害者に配慮した音響環境

発達障害者の多くは音に過敏であることは知られていたのですが、苦手とする音環境と現状の対応状況を明らかにするために、成人当事者及び発達障害児の保護者にアンケート調査を実施して、「苦手とする音やその内容」、「対策の有無と内容」、「日常生活での支障の有無と内容」「聴覚以外の感覚異常」について質問し、147名分の有効回答を得ました。調査・解析の結果、「公共空間」に関わるものであり、且つ生活する上で支障が大きく、さらに何らかの対策が必要だと思われる苦手な音として、

①乳幼児の声・泣き声（支障の内容：ファミリーレストラン等に入り辛い。）
②ハンドドライヤー（支障の内容：外出先でトイレに入れない。）
③体育大会のスターターピストル（支障の内容：体育大会に参加できない。）
④スーパーマーケットの店内放送（支障の内容：家族で買い物に行けない）
⑤体育館の反響音（支障の内容：体育館で行われる授業や行事に参加出来ない。）

が上げられました。これらを分かりやすく示したリーフレットを作成し、現在も関係する団体・組織等に配布しています。

リーフレット「こんな音が苦手です」

ここでは「音のバリア」がある程度明らかになりましたが、音の問題に関しては視覚障害者の情報獲得についても考えなければなりません。バリアフリーのコンフリクトも捉えつつ慎重に考えることが必要です。

# デザインの力

参与 相良　二朗

ここ10年ほど北欧の人々と一緒に仕事をする機会に恵まれています。北欧は、高福祉国家であるということと、シンプルで合理的な優れたデザインが多いということで知られています。

北欧の支援技術に関しては、20数年前に研究所で調査をしたことがありますが、国立の試験研究機関が相互に分担しながら福祉用具の性能評価や研究開発に携わっていました。また、必要な人に必要な用具を提供するシステムが構築されていました。福祉用具の提供システムには大きな変化はありませんが（一部消耗部品等の自己負担が課されるようになっています）、国立の研究開発機関は他の機関へ統合されたり、廃止されたりしていました。デンマークのDanish Centreは、国立技術研究所（Danish Technological Institute）に吸収され、フィンランドのSTAKESは国立保健福祉研究所に統合されました。スウェーデンのHandicap Instituteは、SIAT (Swedish Institute for Assistive Technology)と名前を変更しましたが、2014年4月にMfD（英語名The Swedish Agency for Participation「障害者社会参加機関」）へ統合され、今年の5月1日には従来のWEBページも閉鎖されました。このような研究機関の統合の動きは、財政面からの理由が第一と思われますが、一方、EU内で展開されているDesign for Allというユニバーサルデザイン推進の動きや、障害者の権利条約との関係という、特別なことから普通のことへという動きもあるように感じられます。

SIATには2011年2月に訪問しましたが、認知症高齢者に配慮した支援技術を重点的に展示している居住空間に案内されました（図1）。

図1　SIATにあった認知症者用支援技術展示場

今年の冬にもストックホルムを訪れる機会があり、SIATのWEBページを調べていたら、National Display Apartment（NDA）という記事に出会い、コンタクトを試みましたが連絡がとれず、SIATの前所長であったThomas Lagerwall氏に問い合わせ、SIATがMfDへ統合されたことを知らされました。MfDを介して、NDAを担当している作業療法士のMs.Ingela Månsson氏とコンタクトがとれ、ようやく訪問することができました。

このNDAはMicasaという不動産会社とSIATの共同事業で設置されたもので、ストックホルム中央駅から郊外電車で2つ目のSödra駅すぐの集合住宅の１階部分にありました。どのようにデザインされれば住宅が生涯にわたって安心を提供できるのか、また認知症が進行しても介護作業がやりやすくなるのかを示すことを目的としています。

どちらの住宅も一見普通に見えるようにデザインされていました。説明を聞くと、床材を配慮したり、夜間はトイレの前に印を投影したり、ベッドのナイトライトを点灯すると家中の灯りが消え、遮光カーテンが閉じるなどの細かな配慮が組み込まれていました。特筆すべきは重度な人向けの寝室に備えられたリフトで、ヘッドボード側の壁面に据えられたキャビネットの中に隠されていました(図２)。移乗介助のときに戸棚を開けてリフト本体を引き出して使用でき、普段は本人の視界に「機械」が入らないように気遣われていました。「誰しも、普段の生活の中で機械装置を見たくはないでしょう。病室のような空間で暮らしたいですか？」との説明に、単に介護負担を軽くするという発想だけでなく、使用される側の心理にまで配慮したデザインに感心しました。まさしく「人間中心設計」であり、ユーザが経験することに重点を置くUXデザインであります。もっとも、キッチンキャビネットの黒いハンドルや黒い椅子に対しては「デザイナは好むけど、認知症の人にとって黒は認識しづらい色」と、デザインに対する批評も伺いました。

昨年はオリンピック、パラリンピックのエンブレム問題からデザインに対する信頼が損なわれましたが、技術を人の暮らしに溶け込ませるデザインの力は認知症高齢者に対してより一層重要となるでしょう。ヨーロッパデザイン協会（BEDA）はデザイン、アート、メディア教育機関の世界的な集りであるCUMULUSと共同で「Design for Care」という産学連携事業に取り組んでいるようです。どのような成果が生まれるのか期待するところです。

図2　National Display Apartmentに設置されている枕元のキャビネットに納められたリフター

# 平成28年度 研修のご案内

研修課では、高齢者や障害を有する人が住みなれた地域で生きがいを持って、その人らしく生活ができるよう支援する人材の養成を目指し、充実した研修に向けて取り組んでいます。

日程・内容など詳細についてはホームページをご確認ください。

（6月末現在の研修一覧を表に示しています）

**【平成28年度　介護予防推進・介護支援に関する知識・技術向上研修】**

| 研修番号 | 研修名（仮） | 定員 | 日数 | 研修日 | 申込締切 |
|---|---|---|---|---|---|
| A-1 | 介護予防・日常生活支援総合事業について<br>～制度の概要と事業展開・評価について～ | 36名 | 1日 | 7月 7日（木） | 受付終了 |
| A-2 | 介護予防・日常生活支援総合事業について<br>～情報交換会～　阪神北・南圏域 | 36名 | 1日 | 7月19日（火） | 受付終了 |
| A-3 | 介護予防・日常生活支援総合事業について<br>～情報交換会～　北播磨圏域 | 36名 | 1日 | 7月22日（金） | 7月1日（金） |
| A-4 | 介護予防・日常生活支援総合事業について<br>～情報交換会～　中播磨圏域 | 36名 | 1日 | 8月 3日（水） | 7月13日（水） |
| A-5 | 介護予防・日常生活支援総合事業について<br>～情報交換会～　丹波圏域 | 36名 | 1日 | 8月 8日（月） | 7月19日（火） |
| A-6 | 介護予防・日常生活支援総合事業について<br>～情報交換会～　淡路圏域 | 36名 | 1日 | 8月12日（金） | 7月22日（金） |
| B | 介護予防・日常生活支援総合事業について<br>≪行政・事業所・介護予防の取組実施担当者向け≫ | 36名 | 1日 | 調整中 | |
| C | 介護予防・日常生活支援総合事業への移行<br>～早期から総合事業を取り入れた小田原市の取組～ | 36名 | 1日 | 5月23日（月） | 研修終了 |
| D | 地域ケア会議における他職種連携による自立支援アプローチに向けて | 36名 | 1日 | 調整中 | |
| E | 各地域におけるリハ専門職の活用のメリットについて | 36名 | 1日 | 調整中 | |
| F | 高齢者に向けた運動プログラム研修 | 36名 | 1日 | 調整中 | |
| G | 生活行為向上マネジメントを用いた自立支援型ケアプラン立案研修 | 36名 | 1日 | 6月27日（月） | 研修終了 |
| H | 介護予防のための軽度認知症障害の理解 | 36名 | 1日 | 調整中 | |
| I | 認知症のかたとのコミュニケーション手法 | 36名 | 1日 | 9月 6日（火） | 8月16日（火） |
| J | 認知症のかたの口腔ケアと食支援 | 36名 | 1日 | 7月 1日（金） | 受付終了 |
| K-1 | 介護技術ステップアップ研修〈第1回〉 | 36名 | 1日 | 6月20日（月） | 研修終了 |
| K-2 | 介護技術ステップアップ研修〈第2回〉 | 36名 | 1日 | 7月30日（土） | 7月8日（金） |
| L-1 | 介護技術ステップアップ研修 ～リーダー養成編～〈第1回〉 | 30名 | 4日 | 7月25日（月）<br>7月26日（火）<br>8月17日（水）<br>9月15日（木） | 7月4日（月） |
| L-2 | 介護技術ステップアップ研修 ～リーダー養成編～〈第2回〉 | 30名 | 4日 | 10月17日（月）<br>10月18日（火）<br>11月21日（月）<br>12月19日（月） | 9月26日（月） |
| M | 福祉用具・介護ロボットのポイント研修 | 30名 | 1日 | 10月25日（火） | 10月4日（火） |
| N | 自立を支援するポジショニング研修<br>～24時間の生活を考えたポジショニングを導入しよう～ | 30名 | 2日 | 7月27日（水）<br>7月28日（木） | 7月6日（水） |
| O-1 | 高次脳機能障害研修Ⅰ | 36名 | 1日 | 調整中 | |
| O-2 | 高次脳機能障害研修Ⅱ | 36名 | 1日 | 調整中 | |
| P-1 | 腰痛予防基礎研修〈管理監督職向け〉 | 36名 | 1日 | 9月2日（金） | 8月10日（水） |
| P-2 | 腰痛予防基礎研修〈現場リーダー向け〉 | 30名 | 2日 | 9月2日（金）<br>9月3日（土） | 8月10日（水） |

## 【平成２８年度　介護保険に規定する認知症介護研修事業】

| 研　修　名 | | 定員 | 日数 | 研修日 | 申込締切 |
|---|---|---|---|---|---|
| 認知症介護実践研修（実践者研修） | 第1回 | 70 名 | 6 日 | 6月14日(火)～8月30日(火) | 受付終了 |
| | 第2回 | 70 名 | 6 日 | 7月12日(火)～9月29日(木) | 受付終了 |
| | 第3回 | 70 名 | 6 日 | 9月27日(火)～12月13日(火) | 8 月 24 日（水） |
| | 第4回 | 70 名 | 6 日 | 10月27日(木)～1月19日(木) | 9 月 23 日（金） |
| 認知症介護実践研修（実践リーダー研修） | 第1回 | 30 名 | 10 日 | 6月28日(火)～10月21日(金) | 受付終了 |
| | 第2回 | 30 名 | 10 日 | 11月 1日(火)～2月14日(火) | 9 月 29 日（木） |
| 認知症対応型サービス事業開設者研修 | | 30 名 | 2 日 | 1月13日(金)<br>2月17日(金) | 12 月 13 日（火） |
| 認知症対応型サービス事業管理者研修 | 第1回 | 30 名 | 3 日 | 5月20日(金)～5月27日(金) | 研修終了 |
| | 第2回 | 30 名 | 3 日 | 8月 9日(火)～8月18日(木) | 7 月 7 日（木） |
| | 第3回 | 30 名 | 3 日 | 11月18日(金)～11月30日(水) | 10 月 18 日（火） |
| | 第4回 | 30 名 | 3 日 | 5月27日(金)～1月31日(火) | 12 月 15 日（木） |
| 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 | 第1回 | 30 名 | 2 日 | 10月13日(木)<br>10月14日(金) | 9 月 12 日（月） |
| | 第2回 | 30 名 | 2 日 | 2月21日(火)<br>2月21日(水) | 1 月 19 日（木） |
| 認知症介護実践研修 ( 実践者研修・実践リーダー研修 ) 修了者フォローアップ研修 | | 35 名 | 1 日 | 平成29年2月頃 | 調 整 中 |
| 認知症介護実践研修 ( 実践リーダー研修 ) 修了者フォローアップ研修 | | 35 名 | 1 日 | 平成29年2月頃 | 調 整 中 |

## 【平成２８年度　相談支援従事者研修・サービス管理責任者等研修】

| 研　修　名 | | 定員 | 日数 | 研修日 | 申込締切 |
|---|---|---|---|---|---|
| 相談支援従事者初任者研修 | | 250 名 | 5 日 | 7月14日(木)～10月 7日(金) | 受付終了 |
| 相談支援従事者現任研修 | | 120 名 | 3 日 | 平成29年2月頃 | 調 整 中 |
| サービス管理責任者研修 | 介護分野 | 160 名 | 5 日 | 7月14日(木)～11月10日(木) | 受付終了 |
| | 地域生活分野(身体) | 20 名 | 5 日 | 7月14日(木)<br>12月13日(火) | |
| | 地域生活分野(知的・精神) | 160 名 | 5 日 | 7月14日(木)～12月 2日(金) | |
| | 就労分野 | 160 名 | 5 日 | 7月14日(木)～11月18日(金) | |
| 児童発達支援管理責任者研修 | | 160 名 | 5 日 | 7月14日(木)～12月 9日(金) | 受付終了 |
| サービス管理責任者等(知的・精神、就労、児童発達支援管理責任者)ブラッシュアップ研修 | | 調 整 中 | | | |

## 【平成２８年度　強度行動障害支援者養成研修】

| 研　修　名 | 定員 | 日数 | 研修日 | 申込締切 |
|---|---|---|---|---|
| 強度行動障害支援者養成研修(基礎研修) | 240 名 | 2 日 | 平成28年 9月頃 | 調 整 中 |
| 強度行動障害支援者養成研修(実践研修) | 240 名 | 2 日 | 平成29年 1月頃 | 調 整 中 |

※研修の募集案内の詳細及び申込書は、こちらのホームページからダウンロードしてください。
http://www.hwc.or.jp/kensyuu/
※研修名等、都合により変更する場合があります。詳細はホームページをご確認ください。
※調整中の研修については、確定次第ホームページに掲載しますので、随時ご確認ください。

# 第6回 日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会 in HYOGO

## ご　案　内

来る１１月１２日（土）、１３日（日）、兵庫県立総合リハビリテーションセンター・福祉のまちづくり研究所において、「第６回　日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会　in　HYOGO」が開催されます（主催：ロボットリハビリテーション研究会・兵庫県立福祉のまちづくり研究所）。医療介護現場でのロボット活用の実践例や、ロボット機器の開発から製品化までの取り組みなど、参加者の方々と見識を高め、意義のある情報交流ができればと思います。

開催に向けて、下記のwebでご案内してまいりますので是非ご覧ください。なお「演題募集」、「出展企業募集」「参加申し込み」については、準備が整い次第、随時webでご案内させていただきます。たくさんの関係者の皆様方のご参加をお待ちしています。

**大会案内web**
http://www.2016rrc-hyogo.com/

# 小児筋電義手バンクについて

平成28年４月、ロボットリハビリテーションセンターが、中央病院から福祉のまちづくり研究所に移管されたことに伴い、小児筋電義手バンクの窓口も、福祉のまちづくり研究所に移管されました。

小児筋電義手バンクは、小児筋電義手の普及のため、筋電義手を必要とするお子様への訓練用筋電義手の無償貸し出しや筋電義手の訓練を行う人材の育成などを目的として、平成26年度に設立されました。

おかげさまで、平成27年度末時点で、４千万円余りものご寄附をいただき、16人のお子様に筋電義手を貸し出すことができました。

平成28年度以降は、引き続き中央病院及び連携病院である東京大学医学部附属病院での訓練を行うお子様への筋電義手の貸し出しに加え、中国地方にある病院との連携も予定しており、これまで以上に筋電義手の確保や人材の育成が必要になることが予想されます。

これまでのみなさまのご厚意に感謝いたしますとともに、引き続きご支援いただけますようよろしくお願い申し上げます。

## 小児筋電義手バンクを開設

～子どもたちの 夢・希望 実現のために～

上肢を欠損した子どもの発育に有用な筋電義手の普及を図るため、小児筋電義手バンクを開設しております。
多くの皆様方からの心温まるご寄附をお待ちしております。

総合リハビリテーションセンター
福祉のまちづくり研究所

○事業の概要

1　筋電義手の確保
①　筋電義手を使用されている方に、成長に伴い大きさが合わなくなり、不要になった小児筋電義手の提供を働きかけます。
②　筋電義手の購入やメンテナンス等のために必要な寄附を県民や企業等に広く呼び掛けます。

2　筋電義手の貸し出し
訓練のために必要な小児に筋電義手を貸し出します。

3　人材の育成
今後の計画として、連携病院を募り、訓練できる人材を育成するとともに、連携病院を通じても筋電義手を貸し出します。

ご寄附や事業の内容に関するお問い合わせ

小児筋電義手バンクへの寄附については、次の①又は②の窓口までお問い合わせください。

①兵庫県の「ふるさとひょうご寄附金」※への寄附
兵庫県健康福祉部障害福祉局
障害者支援課
住　所　兵庫県神戸市中央区下山手通５－１０－１
TEL　078（362）4379
FAX　078（362）9040

②兵庫県社会福祉事業団への寄附
兵庫県立福祉のまちづくり研究所
ﾛﾎﾞｯﾄﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ課
住　所　兵庫県神戸市西区曙町 1070
TEL　078（927）2727
内線３８１０又は３８１１
FAX　078（925）9284

※税制上、より優遇を受けることができます

# アシステック掲示板

平成28年度　ひょうごユニバーサル社会づくり推進大会

## 第24回福祉のまちづくりセミナー

テーマ

### 地域に根ざす ノーマライゼーションのとりくみ

社会福祉法人きらくえん

理事長　**市川　禮子**　氏

1937年兵庫県神戸市生まれ。保育所の運営を経て1983年特別養護老人ホーム「喜楽苑」（尼崎市）に入職。1988年には施設長に就任し、「いくの喜楽苑（朝来市）をはじめ県内数か所にホームを開設。きらくえん創設以来30余年「ノーマライゼーション」を理念にかかげ、どんな重い障害があろうとも“普通の生活・暮らし”ができるような実践に取り組む。

厚生労働省・兵庫県等の各種審議会委員、日本福祉大学、兵庫医科大学講師等も務め、2003年度朝日社会福祉賞、2005年度兵庫県功労賞、2015年度兵庫社会福祉賞を受賞。

**と　き**　平成28年7月19日（火）
13：30～　平成 28 年度 ひょうごユニバーサル社会づくり推進大会式典
15：00～　第 24 回 福祉のまちづくりセミナー

**ところ**　兵庫県公館（神戸市中央区下山手通 4-4-1）

**対　象**　どなたでもご参加いただけます　　**参加費**　無　料

※お申込み・お問い合わせはロボットリハビリテーション課まで

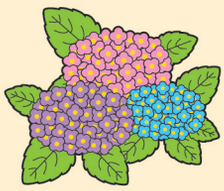

**アシステック通信**

第75号（平成28年7月）

［編集・発行］
社会福祉法人　兵庫県社会福祉事業団
総合リハビリテーションセンター
福祉のまちづくり研究所



〒651-2181　神戸市西区曙町1070
TEL 078-927-2727㈹　FAX 078-925-9284
http://www.assistech.hwc.or.jp


**編集後記**

今年の梅雨は、神戸でも強い雨が降る日が多くありました。そんなある日、雨に打たれながらも、色鮮やかに咲いている紫陽花を目にしました。そんな光景は、花が好きな私のジメジメとした憂鬱な気分に元気を与えてくれています。雨による被害もこれ以上広がらないよう願うばかりです。